

トマトはアオイ

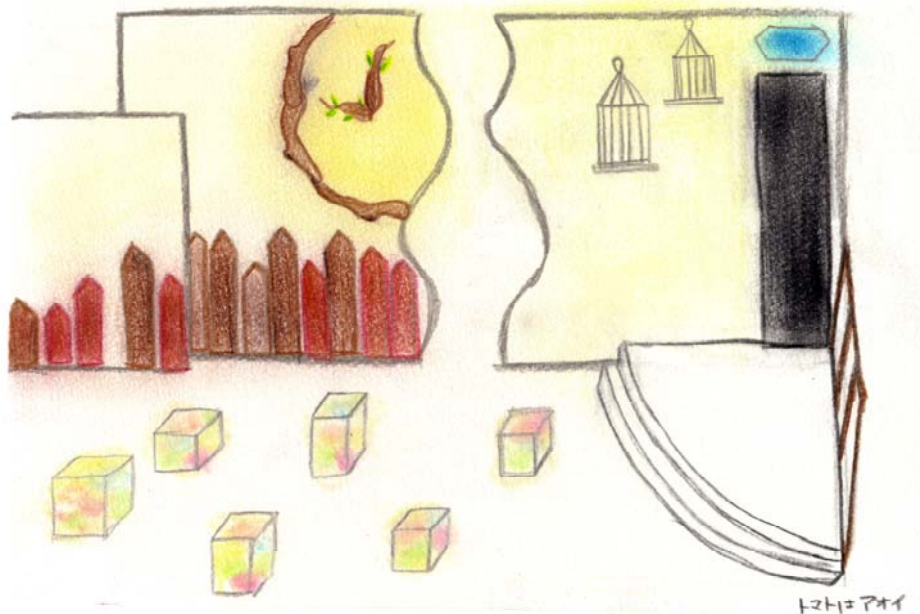
最終決定版

作.. 若松百合香

《シーン目次》

林 一歩	はやし かずほ
大口 優花	おおぐち ゆうか
岡田 沙耶	おかだ さや
水木 圭吾	みずき けいご
工藤 剛	くどう つよじ
花崎 大輝	はなさき だいき
先生	
一歩の母	

*1	A…オープニング・同窓会(0)	3
タイトル		
*2	B…卒業式が終って	5
*3	C…招待状	8
*4	B…先生に赤ちゃん!	11
(一歩のモノローグ①)		
*5	C…二人の日常・原点・記念日	15
(二歩のモノローグ②)		
*6	B…傘水競争・先生との出会い	18
ダンス		
(二歩のモノローグ③)		
*7	B…どこにもない授業	22
*8	C…圭吾、トマトを語る	26
*9	B…タイムカプセルを埋めよう!	30
*10	C…一歩、絵について語る	33
*11	A…同窓会(1) 再会・大輝の結婚	35
(剛のモノローグ①)		
*12	A…同窓会(2) 掃除・宴会始まる	43
*13	A B A…同窓会(3) 宴会・合唱コン	45
(剛のモノローグ②)		
*14	A…優花と沙耶・ホスクラ・恋愛って何?	48
*15	B…お遊びタイム!	53
(剛のモノローグ③)		
*16	A…剛と沙耶・AV女優	54
(剛のモノローグ④)		
*17	C…リング・一歩の不安・想い・事故	58
*18	A…圭吾と剛と大輝。一歩への想い	61
*19	C…一歩の部屋にひとり・夢の世界	64
*20	A…タイムカプセル・先生との再会	65
*21	A…タイムカプセルを開ける(暗転)	69
*22	A…真つ赤なトマトの絵・圭吾の涙	69
(剛のモノローグ⑤)		
*23	C…ラスト・ふたりのトマト	71



1
・
A

廃校になった学校の教室。

壁には壊れた大きな時計のようなものが掛っている。その針は動いていないようだ。教室の隅に、置き去りにされたような机と椅子らしきものが積み重なっている。

オトナ（二十歳）の優花・大輝・剛の3人が話している。

大輝 お前から電話掛かってくるなんて思わなかったよ。

剛 そうか。

優花 なんだかんだ言っても帰ってきたかったんでしょ。

剛 ……。いよいよ明日だな。

優花 うん、明日先生も来るって。

大輝 ショベルカー手配済みだから。

剛 よく借りれたな。

大輝 ああ、こっちの土建屋^{どけんや}にちよっとツテがあつてさ。

沙耶が旅行かばんをごろごろ転がせて偉そうに入ってくる。

沙耶 ごめんない。遅くなっちゃった。

剛 ……

大輝 ……誰？見たことある？（と、剛に向かって）

剛 さあ。

優花 まさか・・!?

沙耶 ひどい!! 私よ!同級生の顔忘れるなんてえ!!

大輝 沙耶…、変わったね!!

優花 化粧ばっちり!!

沙耶 どうせ私は化粧ババーですよ。

大輝 しかし、まあ、この校舎よく取り壊されなかったよな!!

優花 ここ、来年から宿舎になるんだって。

沙耶 そうなの？

優花 結構最近流行ってるんだって、廃校の校舎を民宿にするの。

剛 こんなとこ泊るやついるのか？

大輝 まあ、取り壊されるよかったですよ。

沙耶 そうね。はあー。てか、机ってこんなに低くかったっけ？

優花 もっと教室も広がった気がする・・・(周りを見ながら)

一瞬ではあるが暖かい風が4人を横切る。

静かな教室。それぞれは、ほっとする気持ちや懐かしい気持ちを体で感じる。

「今、二十歳になってここに戻ってきたんだ」と…。

そこに、遅れて圭吾が入ってくる

圭吾 ごめん!! 遅れたあ!!?

大輝 圭吾!!

沙耶 ひっさしつぶり(はずんで)

優花 元気だった？

剛 お前、一人か？

圭吾 ああ。

圭吾は遅れてきている一步に叫ぶ。

圭吾 かずほー!! 何してんだよ。早く来いよー!

しかし一歩は出てこない…。

タイトル「トマトはアオイ」

2・B

小学生時代。

教室。

黄色い帽子に黒いランドセルの圭吾が慌てて飛行機の真似をして入ってくる。
その手には卒業証書の筒。

圭吾 ふいーん！！ふいーん！！…あれ？まだ誰も来てないのかよオ。

後から続いて大輝が入ってくる。そのあとに剛が入ってくるが、剛は見ているだけ。
二人とも証書の筒を持っている。

大輝 ふいーん！ふいーん！

圭吾と大輝が小さな戦いを始める

圭吾・大輝 しゅしゅしゅしゅしゅ！

一歩が入ってくる。男の子たちの戦いを見て、「またか！」といった面持ちの一歩。

一歩 ねえ、もう今日でこの学校ともお別れなんだから、いい加減ドッカンとか、おり
やか、どくしゅとか効果音を口で言うのやめてよね。

圭吾 一人でトイレにいけない人には言われたくないんだよ！なあ、大輝！！それにそんな

変な効果音言ってるぞ！しゅしゅしゅしゅしゅしゅ！

大輝 “ねえ、優花あ、トイレ行かない？？”女子って一人でトイレ行けないんだよなしゅしゅしゅしゅしゅしゅ！

一歩 別にいいじゃない！！将来の夢はヒーローだ！なんて幼稚園生みたいなこと言うてる圭吾よりまし！！

（圭吾と大輝、小さな戦いをやめて…）

圭吾 違うよ、俺の夢は野球選手になって、美人女子アナウンサーと結婚！

大輝 いいね！俺もかわいいコと結婚するぞ！

一歩 これだから男の子は困っちゃう。もっと現実見たほうがいいんじゃない？

剛 そういえば、一歩、中学では「美術部に入りたい！」って言うってたけど…

一歩 うん、わたし、ピカソとか、ゴッホみたいなスゴイ絵かいて有名になるの。

圭吾 なんだそれ？笑わせるぜ！！一歩がピカソ？ゴッホ？「ゴッホ！、ゴッホ！」咳が出そうだぜ！どうせ漫画かなんかに影響されてるだけだろ？

剛 一歩、絵うまいから大丈夫だよ！！

一歩 さすが、剛君。ありがとう。（圭吾に向かって、アッカンベーとする）

大輝 おれ、中学入ったら何部に入ろうかな？

一歩 名古屋の中学校はココと違っていっぱい人いるんじゃない？

圭吾 沙耶の東京よりかはましだろ？

大輝 （嬉しそうに）クラスに可愛い子いっぱいいたりして！

一歩 どうせ私は…

剛 一歩には、圭吾がいるじゃん。

一歩 え!?

圭吾 （一歩の「え!？」とかぶるように）冗談じゃない。こんなヤツと中学も一緒だと思うたら…（変な顔をする）

一歩 思ったら…何よ！

圭吾 思ったら…、い、いや…、幸せだなうと思ってさ！

一步 嘘つきい！

大輝 まあ、中学まで一緒に行くのはお前たち二人だけなんだから…、

剛 仲良くやれよな！

圭吾 剛はいいよな。私立の中学校で！

大輝 町の寮でひとり暮らしなんだろう？

圭吾 ひとりで大丈夫か？

剛 俺、ひとりでいるの好きだから…。

一步 さすがあ、剛君オトナだね。圭吾、少しは見習ったら？

圭吾 一步もな！

大輝 おまえら、ホント仲いいよな。

一步 そう？（少し嬉しそうに）・・・でも、みんないなくなると思うとちよつと淋しい…。

剛 まあ、夏休みには帰って来れるだろうから…。

大輝 俺もいつか遊びに来るよ。

一步 約束だからね。

圭吾 あゝあ、今日でみんなともお別れか…。

そこに、優花と沙耶入ってくる

一步と3人で話し始めるが、男3人はそれには入らず隅でしゃがんで何やら遊びだす。

優花 一步ちゃん。これだぐれの？ 私、福岡まで持っていくトコだったわよ。

一步 わああ、あぶない、あぶない。ありがとう！

沙耶 もお、一步、いつも大切なもの忘れるんだから。

優花 ねえ、私福岡に行ったらお手紙たくさん書くから、一步ちゃんはたくさん絵を送ってね。

一步 うん！

沙耶 私は、「鳩サブレ」送ってあげる。

一步・優花 うん。

（男子たちから「鳩サブレって、東京だったか!」って声が聞こえてくるが、女子3人には聞こえず、指きりげんまんをする）

一歩 あ、そーだ、先生は？

優花 あ、そうそう、（うるさい男の子たちに叫んで）ねえ。（というが男の子たちは応答しないで無視）

優花 ねえねえ！

男全員 （悪ふって）ああ？

優花 うわーん

沙耶 優花…。ちょっと男子、先生が急いで裏庭のジャンボ桜の下に集合って！早くいわよ

剛 じゃあ、みんな行こうぜ!!

大輝 （カッコつけて）いよいよか。

圭吾 （カッコつけて）ああ、ついに来たな。

優花 ねえ、みんな何持ってきた？

沙耶 私は・・・

一歩 言っちゃ駄目!! 二十歳^{はたち}まで楽しみにしておくの!!

優花・沙耶 うん！

大輝 さあ、はやくいこうぜ!!

全員 おー!!

3・C

オトナの一步が何通かの封筒（招待状のようだ）を握り締め公園のベンチで圭吾を待っている。

なかなか来ない圭吾に少しいらだちながらも、なんだか胸がわくわくする。

一歩 もーまだ寝てるのかな？ 大体何時間寝れば気が済むのよ。一緒に出すって約束してたのに。

圭吾が農作業姿で慌てて走ってやってくる。

圭吾 ごめーん、一歩！ 朝からトマトの収穫で忙しくて・・・

一歩 (可愛く怒って) お・は・よ・う。

圭吾 一歩、今年のトマトは結構甘いぞ!!

一歩 そうなんだ。こないだもさ病院いったら、おじちゃん、「俺の作るのには、到底及ばんけどな！」なんて、嬉しそうに話してたよね。

圭吾 まだまだだよ、父ちゃんのトマトには…。父ちゃんに代わって「マンゴーに負けないくらい甘いトマト」作ってやる!

一歩 (さりげなく) そんな圭吾好きだよ。今度、私にも圭吾のトマト食べさせてね!

圭吾 ああ、でも高けーぞー。

一歩 ケチ! でも、これからは圭吾のトマト最初に食べるのは私ね。

圭吾 おう!

一歩 お父さんの調子どう?

圭吾 ああ、昨日は、ちよっと調子良かったかな。

一歩 そう、よかったあ。

圭吾 うん。

一歩 私、畑手伝わなくていいの? 私にはいつでも手伝う準備はできてるんだから…。ちゃんと農高もでてるしね。

圭吾 だから、それはまだ先でイイっていつてるだろ? 今はまだ一人でがんばってみたいんだ。

一歩 そお? それなら・・・なおさら、遅刻したことちゃんと謝りなさいよ!!

圭吾 (わざとらしく) ごめーんごめーん

一歩 あー二回言ったあー!!

圭吾　なんだよ、謝っただろ？

一歩　謝ってすむ問題じゃないの。

圭吾　意味わかんねえ。あ、みんなに招待状出した？

一歩　ここにあります。一緒に出すって言ったでしょ。

圭吾　そうだった、そうだった。みんな帰ってきてくれるかな？

一歩　招待状出せばみんな帰ってくるよ。この町での同級生はわたしたちだけでしょ？

圭吾　だよなあ、みんなどうしてんのかな。大輝は引越してずっと名古屋だったよな。

一歩　うん。

圭吾　あいつ、名古屋コーチンばっかし食ってんのかな？　いいな。

一歩　なに言ってるんの、私たちはおいしいトマト、毎日食べれるじゃない？

圭吾　だよなあ。。。優花は…

一歩　福岡の看護学校。

圭吾　だな。あいつが白衣の天使か？（アドリブで圭吾がナースの真似をする）

一歩　圭吾！　なんか今、いやらしいこと想像したでしょ？

圭吾　んなわけねーだろ。優花だぜ。

一歩　（むっとして）優花、可哀想。

圭吾　剛は…大学生。住所、京都だったよな。

一歩　そう。お母さん言ってたけど京大の農学部って。

圭吾　京大？　すげえ…。しかも農学部？　あいつちゃんと農業継ぐ気にいるのかな？

一歩　どうだろう？

圭吾　それにしてもあいつ全く音沙汰なしだよ。音沙汰なしといえば、沙耶もだ。なにしているだろ？

一歩　沙耶がさあ、分かんないんだよね。住所だけなんとか調べたんだけど、小学校卒業してすぐおばちゃんと一緒に東京行っったつきり帰ってきてないからね。

圭吾　ひさしぶりにみんなに会いたいな！！

一歩　みんな来てくれるかな？

圭吾　おう。そろそろ行くか？　俺、また畑に戻らなくっちゃいけないから。

一歩 え？ うん。

圭吾 郵便局まで競争だ!!

一歩 あ、待ってよ!!

4・B

小学校時代

教室

優花・沙耶は歌を歌いながら仲良く出てくる。

沙耶 優花さん、昨日の味噌汁少なかったわよ。

優花 申し訳ございません。お母様。

沙耶 うちの大ちゃんを糖尿病にするつもり??

優花 お言葉ですが・・・お母様。あの程度の塩では糖尿病にはなりませんわ。

沙耶 あ、そう。うちの大ちゃんは、私の作った薄味の味噌汁が大好き・好きなの。

優花 あ、はい。でもおいしそうに・・・

沙耶 そうね、確かに、大ちゃん優しいからおいしいふりしたかもね・・・、この泥ボー猫!!

二人は目を合わせて笑い合う

優花 昨日の昼ドラ楽しかったね。

沙耶 うん!

そこに、ランドセルが開いたままの圭吾が教室に入ってくる。

きよろきよろ周りを見渡す。また、はじまったか!といった風であきれて見ている優花と沙耶。

圭吾 ふ、まだ来てないようだな。

後ろから大輝がシュリケンを投げつける

大輝 シュリケン攻撃!!

圭吾 うお、やられた・・・こんなところで倒れてしまうなんて。アベシ。

大輝 またつまらぬものを倒してしまった。

圭吾 うお、パトラッシュ、ルーベンスの・・・

剛 (ロボット風に) ケイゴ・イキカエリノ・クスリダ。

圭吾 (ロボット風に) イノチノ・オンジン、イノチノ・オンジン、ワァ。

大輝 それならば最後の手段、俺様のレベルアップしたシュリケンでもう一度倒してやる!!

剛 なんじやこりや!!

圭吾 バリア!! バリア!! バリアしてるときはシュリケンがあたつても倒れません!

大輝 それなら俺様は、透明人間!! 透明人間になったら、見えなくなるんだぞ!!

剛 圭吾!! (手探りしながら) 大輝が見えないよ!!

圭吾 ホントだ!! 見えない。・・・大輝、透明人間使うのなし!!

大輝 えー!! じゃあ、バリア2回までね!!

剛 最初からやり直そうぜ!!

大輝 しつかないなあ。

圭吾 よーし、敵・味方じゃんけんポン!!

一歩が走って階段をかけ降りてくる

一歩 たいへん大変!! 大変大変!!

圭吾 なんだよ、この遊びには入れてやらないからな!!

一歩 違う違う!! (息を切らして) 先生おなかに赤ちゃんいるんだって!!

全員 ……赤ちゃん?

剛 赤ちゃんって・・・

一歩 赤ちゃんだよ!!

大輝 赤ちゃんって・・・

一歩 だ・か・ら、赤ちゃんは赤ちゃんだよ!

優花 えーーーー赤ちゃん???

沙耶 先生赤ちゃんいたの?

一歩 さっき職員室の廊下通ったら、先生たちが、「おめでどうおめでどう」って言ってたの!!先生おなかでながらニコニコ笑ってた!!この情報確実よ!!

大輝 先生赤ちゃんいたんだ!!

剛 すごい

優花 わあ、先生の赤ちゃん早くみたい!!

沙耶 すごい!!先生、お母さんになるんだあ。

優花と沙耶が手を握って見つめあう。

圭吾 よし、いまから、赤ちゃんの名前をみんなで考えよう!!

全員 え?

全員 (それぞれ目を合わせて)おーーーー!!

大輝 大輝ってのは?

一歩 あ、ずるい、じゃあ、一歩は?

優花 真剣に考えてよ!!

沙耶 ん・・・桜ちゃんは?!!

一歩 あ、かわいい。

優花 桜ちゃんかあ、優しい感じるね。

剛・・・梅子。

大輝 なんか、ツバが出てきた・・・

剛 じゃあ、松子ってのは?

一歩 みんなから嫌われちゃうよ！

圭吾 みんな、名前決めるセンスないな・・・やっぱり男の子は太郎！！

優花 だめ！！よく銀行とかで見本に「まるまる〇〇太郎」ってよく書いてあるもん！！

圭吾 じゃあ、桃太郎！！これは大丈夫だろ！「おら、鬼が島に鬼を退治しに行く！！」
皆 行ってらっしゃーい。

圭吾 （むきになって）じゃあ、金太郎！！

一歩 絶対、金太郎って言うと思った・・・あきれる！！

圭吾 じゃあ、ふじもとたろう きささんものしょう ときよし藤本太郎 喜左衛門将時能

大輝 長すぎだよ！！

圭吾 えへへ。日本一長い名前なんだぜ！！

剛 ……三宅宅三（みやけたくぞう）

優花 誰それ・・・

剛 ……反対から読んでも三宅宅三！！

沙耶 本当だ！！すごい！！

一歩 真理！！水田真理！！

圭吾 何だよ。普通じゃないか。

一歩 違うよ。みずた・まり！………水溜り！！

沙耶 すごーい！！

優花 先生の名前松野なんだけど……。

圭吾 そうだったな……ははは……。

沙耶 そういえば、先生の赤ちゃん男の子かな？女の子かな？

一歩 あ……分かんない

大輝 先生に聞きに行こう！！

全員 おーー！！

他の5人は上手の「手すり」のところから一步を見つめる。その見つめる顔は一步を支える笑顔。

一步 (一步のモノローグ①) 私たちの小学校は、私たちが卒業すると同時に、隣町の学校

と統廃合のため、廃校となった。なんせ過疎化が進む山村の小学校で、この先4年間は新一年生がいなくてもあって、村の大人たちも一応署名やら陳情やらをしたみたいだったけど、あまり強くは反対しなかったらしい。私たち6人は、入学以来ずっと同じ教室で同じ机を並べて過ごした。仲が良かったのか悪かったのか、そんなことを考えることも出来ないくらいいつも一緒だった。いつも一緒に遊び、いつも一緒に喧嘩し、そしていつも一緒に仲直りした。その繰り返し6年間はあっという間だったのかもしれない。そんなみんなとも、卒業を機にバラバラになった。私には好きな男の子がいた。(照れながら) はっきり意識したのは中学校に行ってから。卒業後、他の4人が、みんなさまざまな事情で村を出て行ったから、それからはいつも二人だった。

5・C

一步の家。

母親が鼻歌を思いつき歌いながら、ハタキを持って掃除か何かをしている風。奥には一步がいる。まだ寝ているようだ。

圭吾 お邪魔しマース。

母 あら、圭吾君。

圭吾 おはようございます。

母 おはようございます。朝早くからご苦労様です。…一步でしょ。(奥の部屋に向かって) 一步!! 圭吾君来たわよ。

一步 待つて待つて待つて!!! まだ来ちゃ駄目!!

母 (笑) 今起きたみたいね。大慌てね。こんなんだから大丈夫なのかしら…。

圭吾 大丈夫ですよ。俺がついてますから…。

母 ほんと。お願いね。あ、そうそう、圭吾くん朝ごはん食べた?

圭吾 は、はい。

母 (残念そうに) そう?じゃあ、お昼はうちで食べていきなさいよ。

圭吾 いいんですか?

母 いいわよ。

圭吾 おばさんの料理おいしいから。

母 え!? そんなコト言つても何にも出てこないわよ。そうそう、今度、トマト、甘そうなの見繕つて持つてきて…。

圭吾 はい。今年のトマトはいつもより甘いので。

母 圭吾君ちのトマトがやっぱ一番よ。

圭吾 ありがとうございます。

母 じゃあ、おばさんお昼ご飯腕によりをかけて作つてくるから。あとで呼ぶわね。

一步の部屋

一步は身だしなみを整えて、あたふたと部屋を片付けている。

圭吾 入るぞ!! 寝坊か? 俺が遅刻したらうるさいくせに!

一步 仕方ないじゃない。昨日遅くまで起きてたから。

圭吾 漫画の読みすぎか?

一步 違う! 絵描いてたの!!

圭吾 そ。

一步 (カーテンを開けて) ね、今日天気いいからどっか行かない?

圭吾 (否定して) いいよ。

一步 え、最近ちつとも一緒に外で遊んでくれないじゃない。

圭吾 俺は朝4時から働いてんだぞ！

一歩 だって。それに圭吾はちっとも畑手伝わせてくれないし…

圭吾 だから…。それに、ココで漫画読んでる方が俺、落ち着くしさ…

圭吾はまるで自分の部屋のように本棚から漫画を取り出し読み始める。一歩はそんな圭吾でも一緒にいることが嬉しいのか、圭吾に寄り添い幸せそう。

一歩 圭吾 土の匂いがする…。それとトマトの匂いも…(嬉しそうに)

圭吾 そうか？

一歩 圭吾の匂い♪

圭吾 なんだそれ。

一歩 なんでもいーの♪

間

一歩 ねえ、明日は何の日でしょう？

圭吾 え？何の日？ 6月21日だろ？

一歩 そう!!

圭吾 6月21日・・・6月21日・・・むにむに・・・(一歩に抱きつく) むにむにの日？

一歩 ……はあ、記念日・記念日なんですよ!!

圭吾 ああ、そっか。…って何の？

一歩 記念日よ、私たちが付き合って…、ちょうど2年半と…2時間12分32秒…あ、33秒、34秒…。

圭吾 恐ろしいカウントするよな。で、それって、ホント記念日になるのかよ。

一歩 私が記念日って言ったら記念日なの!! でね、今日の企画♪

圭吾 は？

一歩 「げ・ん・て・ん」、私たちののはじまりの話。うふ。

圭吾 何だよそれ

一歩 何でもいいじゃん!! あれは・・・高校2年生の冬 正確には12月21日・・・。クリスマス前に私に気持ち伝えなくちゃってあせってたのね……うふ。朝補習終わって、トイレで手を洗っていたら突然女子トイレに来て、「俺の好きなのは、一歩だ」って……。ねえねえ、私のこといつから好きになったの?? 告白練習した? 私のどこがそんなに好きになったの?

圭吾 ……や、やべー、天才テレビくんビデオ録^とるの忘れてた!! ごめん、帰るね!!

一歩 ちょよ、ちよっと!! ……なによ、もうちよっとときめき合おうよ・・・

明暗

一歩 (一歩のモノローグ②) そう、わたしの好きなのは圭吾。小・中と同じ学校に通った。

高校もおんなじ農業高校。圭吾が行くって言ったから、わたしも農高にした。圭吾は高校時代から、お父さんのトマト栽培を手伝っていた。圭吾んちと私んちは家族ぐるみの付き合い。圭吾はお母さんを早くに亡くしたから、圭吾とお父さんは、時々私んちにご飯食べに来ることもあった。それが、今では毎日。毎日、圭吾だけがご飯を食べに来る。圭吾のお父さんが入院したからだ。それ以来、圭吾はひとりでトマトを育てている。

6・B

小学生時代

雨の音。朝の登校時。

沙耶が傘をさして歩いてくる。
その後優花が歩いてくる。

沙耶 雨かあ・・・プール中止かな・・・。

優花 沙耶ちゃん。おはよう。

沙耶 おはよう。

優花 雨いやだね。

沙耶の靴の紐がほどけているのに気がついて、ちよっと立ち止まる。

沙耶 あ、ちよっとタイム。これ持ってて！

沙耶、さしている傘を優花に渡し、しゃがんで靴紐を結びなおす。
立ち上がって：

沙耶 ありがとう。(といって優花の傘を受け取る)

優花 今週ずっと雨って。

沙耶 そうなんだ・・・。

一歩が傘を指してやってくる。

一歩 おはよう。雨ふってるね(嬉しそうに)

二人 うん・・・(嫌そうに)

一歩 嫌なの？

二人 うん。

沙耶 優花、算数の宿題してきた？

優花 してきたよ!!

一歩 なにそれ・・・？

沙耶 先生言ってたじゃん！今日提出日だよ！

一歩 あ・・・忘れてた（照）

優花 また寝てたんでしょ？

一歩 えへへ。

沙耶 でね、私、分数の割り算のトコちょっと分からないところがあつて。

優花 じゃ、後で教えてあげるよ。

沙耶 ありがとう。

一歩 私も…教えて！

大輝が傘をひっくり返して登場

大輝 おっはよう!!

沙耶 何それ!! どうやってするの？

優花 沙耶ちゃんやめときなよ・・・傘壊れるよ!!

大輝 まず、傘を閉じる! でね、バットみたいに大きく振る!

沙耶 えい!・・・わああ、すごいすごい!! 優花ちゃんも一緒にしようよ!!

優花・・・私はいいよ! 服ぬれるもん。服ぬれたらお母さんに怒られるもん。

大輝 俺なんかいつも濡れ濡れだぜ! 濡れてもへちゃらだからさ。優花もやってみて!

沙耶 優花、早く!! 早く!!

優花 （迷いながらもする）ん・・・えいつ・・・楽しい!!

大輝 よーし、学校まで誰が一番雨溜まるか競争だ!!

優花 （沙耶の傘と重ねて）ねえ、オレンジ色!

一歩 ほんとだあ。

沙耶 面白いね。

圭吾がカッパを着て傘をさして走ってくる、続いて剛が傘に荷物をかけて入ってくる

圭吾 なにやってるの？

大輝 傘水競争！！

圭吾 楽しそう！俺もやる！

剛 ……。

圭吾 剛もやろうぜ。

剛 うん。

皆で一列に並んで傘をさしている

そこに傘をさした女の人が見れる。女の人はにっこり笑いながら、傘をひっくり返した6人を見て傘をひっくり返す。そして列と一緒に並ぶ。どうやらこの女性は先生らしい。

先生 おはようございます。

6人は、声がするほうに顔を覗き込んで、不思議そうに

全員 おはよう……ございます。(?)

6人がひそひそ話しを始める

一歩 だれ？

沙耶 誰かの知り合い？

剛 さあ。

大輝 怪しい……。

優花 ねえ、先生言ってたよね。知らない人に声かけられても応えちゃ駄目だって！！

圭吾 みんなで走って逃げよう。

先生 (笑いながら) あら、先生を不審者扱いするなんて困った生徒たちだわあ！

間

全員 先生？

一歩 先生なんですか？

先生 そうよ。来週からみんなの担任の先生になります。

剛 どうして僕たちのコト分かったんですか？

先生 だって先生なんだもん。

優花 松野先生はどうなるんですか？

先生 あれ？松野先生から聞いてなかった？

先生 赤ちゃん生まれるから、1年間お休みするって。その間私がみんなの先生。みんな、これから卒業までよろしくね。

ダンス♪

一歩 (一歩のモノローグ③) それが先生との出会いだった。先生は、国語の時間に国語の勉強はしない！！算数の時間に算数の勉強はしない。不真面目な先生・・・？ううん、

違う。ちゃんと授業はしてくれる。ただ毎週木曜日はランドセルになんにも入れずに学校に行った。先生の授業には、教科書はいらないって。木曜だけは、教科書のどこを探しても載っていない授業が始まる。

7・B

小学生時代の教室。全員それぞれの席に着いている。前には先生。

先生 出席を取ります。大口優花さん。

優花 はい。

先生 工藤剛くん。

剛　はい。

先生　岡田沙耶さん。

沙耶　はい。

先生　花崎大輝くん。

大輝　はーい。

先生　林一歩さん。

一歩　はーーーーーい。

先生　水木圭吾くん。

圭吾　はーーーーーい。

先生　みいな元気でよろしい。

一歩　今日の授業 何ですか？

沙耶　また先生の宇宙人の友達の話聞きたい！

先生　そうね、先週は宇宙人の友達の作り方を勉強をしたわね。それじゃあ、復習ね。宇宙人と友達になるにはどうしたらよかったかな？

（みんな一斉に「ハ－イ」と言って手を挙げる。圭吾が当てられる）

圭吾　宇宙人の気持ちになること。

先生　そうね、まずは、宇宙人の気持ちになること。よく覚えてたわね。二つ目は？

（みんな一斉に「ハ－イ」と言って手を挙げる。一歩が当てられる）

一歩　宇宙人のように行動すること。

大輝と圭吾が宇宙人の真似をする。みんな笑う。

先生　（大輝と圭吾を褒めて）そうね、宇宙人のように行動すること。三つ目は？

（みんな一斉に「ハ－イ」と言って手を挙げる。大輝が当てられる）

大輝　宇宙人の気持ちになること。

圭吾　それ俺が言いました！！

先生　残念。ほかにわかる人？

(みんな一斉に「ハイ」と言っ手て手を挙げる。剛が当てられる)

剛 宇宙人として生きていくこと。

先生 そうね、私たち地球人も宇宙人であることを忘れずに生きていきましようね。

全員 はい。

先生 それじゃあ、(もつたいをつけて) 今日の授業は…

全員 今日の授業は？

先生 空の飛び方を覚えましよう!!

沙耶 えー空の飛び方!?(興味津々)

先生 そう、空の飛び方。空を飛んだことがある人？

全員 (しーん・・・みんなそれぞれの顔をちらちら見る)

先生 あら、いないの？ 先生なんか毎日空を飛んで学校に来てるわよ。

大輝 うっそだあ。

圭吾 先生羽根ないじゃん!!

先生 それじゃあ、先生は天使じゃないみたい。

剛 天使はもつと可愛いんじゃないか？

優花 先生は十分かわいいよ。

沙耶 優花は自分が「かわいい」って言ってもらいたいんでしょう？

先生 それじゃあ、始めるわね。ランドセルと帽子を片付けてね。女の子が前、男の子が後ろに並びなさい。準備できたわね。・・・まず一つ、静かに目を閉じる。

生徒はステージ前方に横一列に前を向いて並ぶ。男の子たちはふざけている。だが、次第に先生の指示通りに動く。

先生 みんな閉じたかな？ あ、目、開けてる人いるでしょう。

大輝が片目が開いている、スグに目を閉じる

先生 みんなは今、ひろーい草原の中にぼつんと建っている高い塔の上にいます。どこまでもどこまでも草原は続いています。

目開けちゃダメよ。・・・一人でも開けちゃうと空は飛べなくなるから。

手を広げてごらん。足の下から暖かい風が吹いてくるでしょ？ その風はみんなの足の、親指の先から入ってくるの。どう？入ってきた？

風は、親指から段々と体の中を静かに、でもスーッと上がってきます。どう？

6人、それぞれに「ひざまで来た！」「太ももにきた！」「お尻にきた！」「腰まできた！」「背中を感じる！」「首まで来た！」などと嬉しそうにつぶやいたり叫んだり。

先生 そう、みんな優秀ね。どう？今度は両腕通って中指の先まで来たかな？ 首を通って、鼻から抜けて、耳から抜けて、髪の毛一本一本まで風が通ったかな？ 感じてごらん！！

6人、それぞれに「来た！来た！」「感じる、感じる」と嬉しそうに答える

先生 これで空を飛ぶ準備は出来たわね。

6人、「もう飛べるの？」「早く飛ぼうよ」「飛びたい！」の声。

先生 でも、これだけじゃあ、空は飛べないの。

6人、「えー、まだ！」などの声

先生 ここからが大事！みんな静かにして！いーい？時々、強い風が下から「ふーっ」吹き上げてくる時があるから、その風をうまくつかまえてね。そのためには…静かに静かに風たちの声に耳を澄ませないといけないの。（小さく）聞こえる？風の声…。

みんな静かに風の声を聴こうとしている表情。
やがて口々に「聞こえる、聞こえた」の小さなつぶやき

先生 「ふーっ」と強い風を感じたら、右足を一步前に踏み出すのよ！

全員 （懸命に風の声を聞こうとする）

大輝 今だ！！

剛 （間髪を入れずに）今だ！

先生 みんな、さあ飛んで

圭吾 とべた！とべた！！

沙耶 先生とべた！

子どもたち口々に「先生飛べた！」「ワーっ」と叫び、喜びを隠せない。

音楽

子どもたちは、溢れる感動と幸福と爽快さの表情で「自由」に舞台上を「飛ぶ」。
ニコニコと見守っている先生。

暗転（フェードアウト）

8・C

ドアをたたくノックの音。

一步の部屋。昼下がり。

母 一步入るわよ。また、ボーっとして。はい、一步の洗濯物。

一步 あ、ありがと。

母 もうすぐ、圭吾君来る頃だね。

一歩 うん。

母 どっか連れっけてくれるの？

一歩 ううん。トマトいっぱい持って来てくれるんだって。

母 わく、楽しみ！ 圭吾君、一歩がトマト大好きだと思ってるみたいだけど、ほんとに私の方が好きなのよね。

一歩 えー、わたしも好きだもん！ わたしの方が大好きだもん！

母 あら、告白？（笑）

一歩 ちがう！（照）

圭吾 （圭吾の声）一歩いるか？

一歩 あ！

母 うわさをすれば・・・（笑）（呼びかけて）圭吾くん！ 上がってきていいわよ。

圭吾 お邪魔じゃします（と部屋に入ってくる）あ、おばさんこんにちは。トマト玄関とこ置いてるんで。

母 ありがとう。お父さんの調子は？

圭吾 まあ、昨日今日と調子がいいみたいです。

母 そう。できるだけついてあげなきゃね。

圭吾 は、はい。

母 この間のトマトのお茶漬結構美味しかったわよ。

圭吾 そうですか。日本人はトマトをそのまんま生で食べることが多いけど、トマトに熱を加えて料理するのって世界的には結構多いんですよ。

母 イタリアンとかね。

圭吾 トマトはもともと南米アンデス山脈が原産地で、赤道直下の太陽の光をいっぱい受けて、厳しい環境の中でもたくましく、真っ赤な実を付けていたんです。だから、トマトは意外と生命力が強いんです。

母 ふーん。（感心して聞き入っている）

圭吾 トマトの種って見たことあります？

母 トマトの種？

圭吾 普通の農家は他所から買った苗を育てるのが多いんですけど、僕のうちではずーっと種から育ててるんです。トマトの種って鼻息で飛んでしまいそうなくらいちっちゃいんですよ。その種を一粒一粒「ちゃんと目を出せよ！」って声かけながら蒔いて、芽が出てきたら苗に育てて、それを今度は、台木に接木する。すると病気にやられにくくなるんです。種蒔き・育苗・接木・手入れ・受粉・収穫と、そのひとつひとつがどれも手作業で、愛情と根気が要る作業なんですよ。でもそうやってできたトマトの実は本当に真っ赤で甘い！っていうか「うま味が濃い」んですよ。

母 「うま味」？ 「うま味」じゃないの？

圭吾 「うま味」って言った方が、おいしさがこう込み上げてきませんか？ だから僕は「うま味が濃い」って言ってるんです。

母 なるほどね。（感心しながら）圭吾君もいろいろ考えているのね。

圭吾 （ほめられてうれしい）

一歩 （スネた様子で）ふん！ 読み間違えただけじゃない！（でも、圭吾たちには聞こえない）

母 トマトのことほんとに好きなのね。

圭吾 はい！

一歩 （いじけながら）ずるーい！一歩さびしい。だって二人で永遠としやべってんだもん！

母 あ、ゴメンゴメン！ なんか、おばさん お邪魔みたいね。

圭吾 おばさん、なんか焦げ臭くないですか。

三人で匂いをかく。

母 あ、おばちゃんお鍋かけっぱなしだった。

母があわてて出て行く。

一歩 ねえ、私にもトマトの話して！

圭吾 ……

一歩 トマトの話、私も聞きたい。

圭吾 (ぶっさらぼうに棒読みで) トマトの原産地はアンデスで、それを僕は育てているんだけど、種から育てるのはすっごく大変だったこと！ おやすみ！ (と言って、寝そべって漫画を読み出す)

一歩 え？ それだけ！ それってさっきお母さんに話してたことじゃん。ちがう話聞かせてよ。このおたんこナス！

圭吾 おたんこナス？ (ニタつと笑い、起き上がって) それじゃ、その話をしてやろう。

一歩 え？ ……

圭吾 野菜ってさー、よく悪口に使われるんだよ。ボケナスだろ。ドテかぼちゃだろ、モヤシっ子だろ。そして、(二歩の足を指して) ダイコン足だろ。

一歩 ひどーい！ (圭吾に一撃！)

圭吾 痛っ！ でもさー、トマトってそんな風に悪く言われることがないんだよ。

一歩 ……ほんとだ！

圭吾 つまり、トマトのイメージは美しくって可愛いってこと。決してバカじゃないってこと！ みんなから愛されてるってこと！ お前とは・・・大違いだな。

一歩 ひどーい！

母 一歩、…一歩！ もうすぐ夕飯できるからちよっと手伝って。

一歩 (圭吾に向かって) ちよっと行って来なきゃ。

圭吾 ああ、俺も手伝おうか？

一歩 いいって、いいって（といって部屋から出て行く）

再び漫画を読み出す圭吾。

9・B

照明転換し、小学生時代。教室。

剛・大輝が登場。圭吾に話しかける。

剛 昨日「ちびまる子ちゃん」みた？

大輝 みたよ！

圭吾 タイムカプセルっていいよなあ。

剛 俺たちもつくらないか？

圭吾 作ろう！！

大輝 どうやって作るんだろう？

剛 さあ、

圭吾 先生に聞いてみよう！

一歩・優花・沙耶が「お金持ちごっこ」をしながら入ってくる。それを邪魔くさく眺める男3人。

一歩 おほほっほ。昨日主人に、フランス料理の「マルコ・ポーロ」に連れて行ってもらいましたの。

優花 ああ、そこ。去年よく行きましたわ。

沙耶 うちなんかわざわざ行かなくてもシェフが家まで出向いて宅のキッチンでフルコース

作ってくださるのよ。

一歩 あら、すてきねえ。

3人 ねえ。

男の子たち負けじと「お金がないごっこ」をはじめめる。女子たちムツとして男子の会話を聞く。

大輝 なあ、あといくら残ってる？

剛 52円だ。

圭吾 いーなー。俺、36円。

大輝 お前たち金持ちだな。おれ12円だ。

剛 これじゃ、飯食えねーよ。

大輝 ばかゆうな、よく考えてみる。3人合わせて100円だ。

圭吾 すげー金持ちだな。

大輝 これで百円のパンが買えるぜ！

圭吾 そうだな！

剛 (ちよつと考えて、否定するように) いや、買えない。

大輝・圭吾

剛 消費税の5円足りねー！

圭吾 しよ、消費税か！

大輝 ぐあゝ、憎つくき消費税！

といって、男3人悔しがる。

あきれた女子たちが、業を煮やしたかのように男子の会話を中断する。

沙耶 ねえ男子、私たちのこの高級な空気を邪魔しないでよー！！

一歩・優花 そうよ！そうよ！

大輝 邪魔してきたのはどっちだよ！俺たちタイムカプセルの話してたんだから！

優花 タイムカプセル？

一歩 あー！！昨日の「ちびまる子ちゃん」でしょ。

沙耶 私も見たよ！！面白かったよね！

剛 みんなでタイムカプセル作らないか。

優花 賛成！タイムカプセルっておとなになってみんなで見るんでしょう？

一歩 まるちゃん、山口百恵の「ひと夏の経験」のレコード入れたよね。

大輝 一歩は何入れるんだよ。

一歩 うーん、何にしようかな。圭吾は？

圭吾 おれは・・・。

大輝 じゃあ、明日までにみんな考えてこようぜ！！

沙耶 いつ開ける？

優花 まるちゃんたちは二十歳^{はたち}って言ってたよ。

一歩 じゃあ、私たちも二十歳！！

剛 二十歳かあ、

大輝 二十歳ってことは・・・

優花 二十歳っていうのは20歳のことなんだよ。

剛 8年後だな。

大輝 えーまだまだずっと先じゃんか！！

圭吾 二十歳になったらみんな何になってるんだろ？

一歩 私、お嫁さん。

圭吾 えー、お前が？？

一歩 じゃあ、圭吾は？

圭吾 俺は、野球選手！大輝は？

大輝 俺は、宇宙飛行士！

沙耶 私は、スチュワーデス！剛は？

剛 ……。

圭吾 お前は・・・、きっと東京かどつかの一流大学に行ってる！ お前頭いいからな！

優花 私…、オトナになんかなりたくない！ いまのままでいい！！

5人 ネバーランドか！！

先生登場。

先生 おはよう！みんな何話してるの？

みんな先生に駆け寄る。

一歩 先生！！

全員 先生！！

優花 先生！！ 私たちタイムカプセル作ることにしたんです。

先生 あら、ステキ！

圭吾 先生タイムカプセルって僕たちでも作れますか？

先生 勿論！ じゃあ、卒業式の日にはジャンボ桜の下にみんなで埋めましょう。

全員 わあ、やった！！（と口々に叫ぶ）

優花 先生ジャンボ桜の下に行つてどこに埋めるかみんなで決めたいです。

先生 そうね、行きましょうか！！

暗転

10
・
C

一歩の部屋

歌いながらイーゼルとスケッチブックを持って部屋に入ってくる。歌いながら絵を描く準備

をする。

♪「トマト」

トマトってかわいい名前だね

上から読んでもトマト 下から読んでもトマト

トマトってなかなかおしゃれだね

小さいときには青い服 大きくなったら赤い服

と歌いながら…

絵を描こうとするがなかなか思うように描けない。そこに圭吾が入ってくる。

圭吾 お邪魔します。

一歩 お邪魔です。

一歩慌てて絵を隠す。その姿を見て・・・

圭吾 (部屋を見わたして) おまえさあ、最近何の絵描いてるの？

一歩 決ってない。

圭吾 でもこの間絵描いてて寝るの遅くなったって。

一歩 違うの。何描くのか考えてたら寝るのおそくなったの。

圭吾 お前が眠れないなんて珍しいな。

一歩 最近描きたいものがないし、前みたいにすらすら描けないんだよね……。なんか物足りなくて……。

圭吾 まあ、描きたいときに描いたらいいよ。これからもな。

一歩 うん、ありがとう。この間ね、小学1年のとき描いた絵が見つかったの。母の日の絵で……。それがへたくそでさあ……。髪の毛10本くらいで鼻の下思いつきり長い。一人で大爆笑しちゃった。

一歩 (絵を探して圭吾に見せる) これこれ。

圭吾 昔描いた絵かあ。うわっ！(げらげら笑う) こりゃあ、ひどいなあ。

現在

11

・
A

暗転
幸せそうな二人の笑い声

一歩 ひどい、そんなに笑うことないでしょ。

圭吾 俺のもあったかな。今度見せてやるよ。(笑いながら)俺のほうが絶対うまいよ。

一歩 ひどい！圭吾よりはうまいもんねえ。でね、聞いてよ！！この絵ずっとみてたら、段々良い味だしてるなあって思っで、それ見て真似して描いてみたわけ、でもね、同じ絵にはならないの。簡単そうに見えたけど難しくて。小学校のときの絵の方が気持ちが伝わってくるんだよね・・・。

圭吾 そうか？「うまあじ」が違うんだよ。

一歩 そうなの！色はむちゃくちゃだけど、なんか「そうだなあ」って納得できるの。今描いたらどうしても色が決まっちゃう。太陽は赤いとか空は青いとか。別に絵の中は自由なんだから何色でもいいんだけどね。何でだろ・・・。

圭吾 おまえ、絵描くの好きなんだな。

一歩 うん、好きなの。私、絵描くの大好きなの。全部、絵に描くの。音とか光とか匂いとか・・・。目には見えないけど、ちゃんと描くの。大切だから描くの。消えてしまわないようにちゃんと描こうって決めてるの。

圭吾 ・・・・。(一歩を愛おしく思っでみつめているのだが、そのことを気づかれまいともしているかのよう)

一歩 どうしたの？

圭吾 いや、なんでもない。よし、漫画でも読むかあ！

一歩 えーまた？なんか話しよう!!

圭吾 どうぞ。

誰もいない廃校の教室。机と椅子は教室の端に積み重なっている。少し湿気った匂いと、机と椅子の木の匂い。教室は8年前より小さく見える。あっけらかんとした教室に思い出の姿を思い浮かべたくなる空気。そこに優花が入ってくる。

優花 あれ？まだ誰も来てないのか・・・電車一本速いのに乗ってきたのに……。 (深呼吸して) この匂い懐かしい・・・この教室変わらないな。・・・えっと、私椅子はこれ！

一時無言

そこに大輝が入ってくる。

大輝 ……優花？

間

優花 ……大輝くん？

大輝 久しぶり。

優花 久しぶり!! えーなんかな大輝くん変わった!! 少しカッコヨクなった。

大輝 (ちよつとうれしそうに) そっか。最近、仕事忙しくってさー。

優花 仕事何してるの？

大輝 昼は中華料理屋で、夜は工事現場。それより優花は？

優花 今年の春から看護師。准看だけだね。

大輝 お前が看護師？ お前昔よく泣いてたのになー。「えーんえーん、沙耶ちゃん」(笑)

優花 もお、そんなことないよ!! (笑) それにしても、どうしてそんなに働らかなくちゃいけないの？

大輝 まあな。

優花 あ、わかった！ 何か欲しいものでもあるんでしょう？

大輝 いや、そんなんじゃないけど。子どもがさあ、

優花 子ども？！

大輝 俺結婚したんだ！

優花 (驚き) え、いつ？！

大輝 1年前。

優花 誰と？

大輝 (考えて) ん・・・、友達の知り合い・・・？

優花 へえ、いくつ？

大輝 2つ下。

優花 え!? 18で子ども産んだの？

大輝 ……。

優花 男？女？

大輝 女の子。今6ヶ月なんだ。

優花 大変でしょ？

大輝 ん・・・まあな。でも何とかやっていけるから。

優花 へー。お父さんかあ。

大輝 写メ見るか？

優花 うん!!

大輝はポケットから携帯を取り出し、子どもが写っている待ち受け画面を優花に見せる。

大輝 かわいいだろ。美輝^{みき}って名前なんだ!!

優花 美輝ちゃんかあ。 (笑)

大輝 美しいに輝くって書いて「美輝」。もう、そのまんま!

優花 (笑)

大輝 でね。よく見て!

優花 うん？

大輝 特に俺と鼻の穴がまったく一緒なんだから。

優花 鼻の穴？

大輝 そう、鼻の穴。でね、次の写真。（と言って携帯で次の写真を見せる）

優花 わー、かわいい！

大輝 だろ！ それ以上かわいい写真ない！

優花 （笑）

大輝 で、最後に…、動画で…見る？

優花 （躊躇して）みんなが来てから一緒にみようかな？

大輝 （ちよつとがっかりした様子で）そ！（と言って携帯を閉じる。不満そう）

優花 ほんとに親バカなんだね。

大輝 まあな。

優花 ね、そろそろ椅子ならべない？

大輝 そうだな。

大輝・優花、教室の椅子を並べだす

優花 圭吾に結婚のこと言った？

大輝 いや、言えるわけないだろ…。

剛が教室に入ってくる

剛 やあ、（緊張して）

間

大輝 おお、剛!! 早いな。

剛 おう。

優花 ねえ、ねえ、知ってた？ 大輝君、子どもがいるんだよ。

剛 ああ、電話で聞いた。

大輝 お前から電話掛かってくるなんて思わなかったよ。

剛 そうか。

優花 剛君はなんだかんだ言っても帰ってきたかったんでしょ。大輝君の子ども見た？

剛 いや。

優花が大輝の携帯を取り上げ、剛に見せる。

剛 サルみてえ。

大輝 失礼だな!! 見ろよ、鼻の穴が俺と全く一緒なんだ。

剛 鼻の穴？

大輝 だろ？

剛 子どもとしては、父親と鼻の穴が似てるっていわれてもなあ…嬉しかねーよ。

大輝 いいんだよ、何でも。

剛 なんでもいいんかい!!

大輝の携帯に電話がかかってくる。どうやら妻の春香かららしい。

大輝 「春香？ どうした？ うん、うん、さっき着いた。美輝どうしてる？ ハーイ、

ミキチャーン、パパデシユヨ、イイコニシトクンデシユヨ。うん、…うん、明後日の夕方には帰るから。なんかあったらこっちから電話する…じゃあね、はーい」(大輝電話切り、ちよっと照れくさそう) 何？

優花 ミキチャーン、パパデシユヨ、だつて♪

大輝 何だよ。

剛 今が幸せなときだな。

大輝 まあな。

優花 大輝君、奥さんのことずっと大事にしなくちゃだめよ。

大輝 おお……。いよいよ明日だな。

優花 うん、明日先生も来るって。

大輝 ショベルカー手配済みだから。

剛 よく借りれたな。

大輝 こっちの土建屋にちよつとツテがあつてさ。

沙耶が旅行かばんをごろごろ転がせて偉そうに入ってくる。

沙耶 ごめんなさい。遅くなっちゃった。

剛 ……

大輝 ……誰？ 見たこと有る？（と、剛に向かって）

剛 さあ。

優花 もしかして…!?

沙耶 ひどい!! 私よ! 同級生の顔忘れるなんて!!

大輝 沙耶、変わったな!!

優花 化粧ばっちり!!

沙耶 どうせ、私は化粧ババーですよ!（ごちゃごちゃ言う）

優花 今アパレルの仕事してるんだって。

沙耶 ああ、優花、今晚よろしくね。

優花 うん! 沙耶、忙しいから、今日来ないんじゃないかって思ってた。

大輝 お前そんなに忙しいのか。

沙耶 まあね。

剛 お前さあ、

沙耶 何?

剛 別に。

大輝 しかし、まあ、この校舎よく取り壊されなかったよな！

優花 ここね、来年から宿舎になるんだって。

沙耶 そうなの？

優花 結構最近流行ってるんだって、廃校の校舎を民宿にするの。

剛 こんなとこ泊るやついるのか？

大輝 まあ、取り壊されるよかったですよ。

沙耶 そうね。はあ、てか、机ってこんなに低くかったけ？

優花 もっと教室も広かった気がする・・・(周りを見ながら)

一瞬ではあるが暖かい風が4人を横切る。

静かな教室。それぞれは、ほっとする気持ちや懐かしい気持ちを体で感じる。

「今、二十歳になってここに戻ってきたんだ」と…。

そこに、遅れて圭吾が入ってくる

圭吾 ごめん!! 遅れたあ!!?

大輝 おお、圭吾!! もう、大丈夫か？

圭吾 ああ。(みんなに向かつて) みんな、久しぶり。

全員 久しぶり!!

圭吾 大輝だろ？ 剛だろ？ 優花だろ？・・・誰？

沙耶 久しぶり！

圭吾 沙耶？

大輝 沙耶変わったよな。

沙耶 みんな変わった変わったって、昔の私は何だったのよ!!

剛 いや、都会に住んでるって感じ!! 良い意味だよ!!

圭吾 沙耶がお母さんと一緒に東京に引っ越して、心配してたんだぞ。お母さん元気か？

沙耶 死んじゃった。高三のとき。

全員 ……

優花 それからひとりで頑張ってきたんだって。すごいよね、沙耶ちゃんは。

大輝 高校卒業してすぐに就職できて良かったよな。アパレル関係だもんな。

剛 いまも仕事続けてるんだよな？

沙耶 まあね、今じゃ、結構仕事まかされるようになったんだ。

剛 ……

圭吾 その後、お父さんとは…

沙耶 (その言葉を断ち切るように) そうだ。じゃあ、そろそろ準備しよっか。

優花 うん。

大輝 じゃあ俺たち 買出し行ってくっか。(女子に向かって) じゃあそっち掃除よろしくね。

剛 「みやむら」ってまだあるの？

圭吾 あるよ！ あそこのじいちゃん全然年とらないんだよな！

大輝 懐かしい……。じゃあ、そこに買いに行くか。

優花 じゃあ、男子は買出しね！

沙耶 やばい！私、駅に携帯忘れてきた!! ……行ってくる！

優花 田舎だからだれも盗らないよ。

沙耶 私にとっては、ケータイは命の次に大切なの!!。

大輝 なら、忘れんなよ！

優花 じゃあ、私と剛君で掃除しとくね。(剛に) いい？

剛 う、うん。

圭吾 俺たち行ってくるね!!

優花 はい!!

沙耶 私も途中まで一緒にいく!!

3人はける。

掃除の準備をはじめる優花。

明暗（優花は掃除をしている）

剛 （剛のモノログ①） こうして8年ぶりの同窓会は始まった。僕たちが8年前に決めていたこの会に僕は来るつもりはなかった。今の僕がココに来る理由なんてなかったし、僕が来たところで何かが変わるなんてことも思っていなかった。もしかしたらみんなも同じだったかもしれない。だけど僕たち6人は確かに場所^{ココ}にいたんだ。集まろうと声を掛けたのは・・・僕だった。そして僕は8年ぶりにこの場所に帰ってきたんだ。

12
・
A

明暗あけ

掃除をしている優花が、モノログの終わった剛に向かって。

優花 ねえ、剛君、何してんの？

剛 あ、ああ、ゴメン。

二人掃除をはじめる。

優花 先生変わってると思う？

剛 ん・・・

優花 ねえ、剛くんさあ、沙耶のこと好きだったでしょ？

剛 え？。

優花 リコーダーのテストのときも一緒だったもんね。

剛 そんなことないよ。お前はどうかんだよ。

優花 私？（笑）

剛 今付き合ってる男とかいるのか？

優花 まーね。剛くんはどうなのよ。

剛 ……。

優花 私はねえー、中学卒業してから彼氏がなくなつたの1ヶ月くらいしかないよ。それ以外はずっと彼氏いたし……。

沙耶が携帯を持って帰ってくる。

沙耶 ごめんね、掃除まかせつきりで。もうきれいになったみたいね。

優花 う、うん、もう少しで終る。

沙耶 圭吾たちまだ？

優花 昔みたいに、どこかで寄り道してるんじゃない？

沙耶 かもね（笑）

そこに男の子たち飲み物の入った袋を持って帰ってくる。

圭吾 おまたせー。

優花 おそいよ!!

大輝 ごめんごめん、圭吾が競争しようって言うからさあ…。

圭吾 横腹いたーい。

大輝 ビール買って来たぜ!!

沙耶 ちよつと休憩しようか。

優花 もう休憩？

剛 沙耶、お前ほとんど何もしてねーじゃねーか。

圭吾 働かざるもの飲むべからず。

沙耶 駅遠いんだから。

曲♪

5人、買ってきたビールや飲み物、おつまみなんかを袋からだし、ちょっとした宴会ムード。

13
・
A
B
A

圭吾 なあ、おぼえてるか？ 合唱コン！

大輝 懐かしいな。合唱コン出たよな。

沙耶 相当懐かしい。放課後毎日練習したよね。

優花 最初みんな音程あわなくて、大変だったよね！（笑）

大輝 そうそう、特にひどかったのは圭吾！

圭吾 え？ そうだっけ？

優花 バスでさあ、ホールまで行ったよね、バスの中でみんな緊張してて……。

沙耶 先生緊張ほぐそうとして、必死に面白いこと言ってたよね。

大輝 あの時先生なんていつてたっけ？

全員 ……（思い出そうとする）

剛 （冷静に）グリーングリーンだけにぐりぐりがんばろう。

全員 ……（固まる）

沙耶 （はっとして）そう!! グリーングリーンだけにぐりぐりがんばろう♪

剛以外みんな「ぐりぐりがんばろう」を連呼する。

大輝 でも、一番緊張してたのは、先生で……。

沙耶 バス降りるとき思いつきこけたんだよね。

圭吾 それ見て俺たち緊張とれたんだよね。

優花 先生は「選曲がいいから金賞・間違いない」って言ってたけど……

大輝 俺たち絶対無理って思ってた。

剛 本当に賞もらえなかったもんな。

先生と一歩登場し、そのまま小学生時代のシーン

先生 みんな、よく頑張ったわよ。

全員 えーんえーん。ううううう……。。

一歩 こんなに頑張ったのに。

沙耶 なんて……。。

剛 ……。

圭吾 他の学校へたくそだったのに。

大輝 悔しい……。。

先生 先生も悲しい……。わーん。先生が一番がんばったのに。

全員 (ちよつと啞然として)……。先生。

一歩 先生、頑張ったから!!

圭吾 僕たち楽しかったですよ。なあ？

剛 うん!! 楽しかったよ、先生。

優花 うん、私も。悔しいけど、楽しかった。

沙耶 私たち頑張ったから。

先生 そお?……。。

子どもたちの励まされながらも、落胆は隠せない様子で、うな垂れてはける。

一歩もはけて、現在に戻る

圭吾 先生相当落ち込んでたよな。

沙耶 うん。

優花 先生必死だったんだもんね。

大輝 なんであんなに必死だったんだろう。

剛 どうしてだろ。

(間)

圭吾 そろそろ日も暮れてきたし、ココ出なくっちゃね。

沙耶 そうだね。

大輝 優花たちはこれからどうする？ 俺たち駅前のカラオケ行こうって話してたんだけど、行く？

優花 行く！行く！ 沙耶ちゃんは？

沙耶 うええ。(吐きそうになる)

優花 沙耶ちゃん、ちよつと飲み過ぎよ(笑) どうしよう・・・。

沙耶 うえ・・・。

大輝 こりやあ無理だな。俺たち男3人で行ってくるわ。

優花 ごめん、そうね、3人で行ってきて。(残念そうに、でも切りかえて) 積もる話もあるだろうから♪

圭吾 そうだな・・・じゃ、また明日10時。

優花 OK！ さあ、帰ろう…。(と酔いつぶれた沙耶を抱えようとする)

沙耶 うん。

剛 (剛のモノローグ②) 8年ぶりに教室に入った。8年なんてあつという間だったのか

もしれない。8年ぶりに会った僕たちは8年前の自分を半分、8年間の自分を半分持

っているみたいだった。二十歳^{はたち}になって8年前より大人に近づいた僕たちは、みんな

大人みたいに話した。

14
・
A

優花の部屋　沙耶がソファに座っている

沙耶　お水まーだ。

優花　ちよつと待ってて。

沙耶　・・・。

優花　あれからもう1年ね・・・。

沙耶　私行けなかったもんね・・・。

優花　恋愛って不思議よね。すごく好きでもあっけなく終わっちゃたり、そんなに好きでなくとも結構うまく続いたり、恋愛ってどうなるかわかんないね。

沙耶　そうそう。

優花　大輝くん、子どもがいるんだって。

沙耶　えー。そうなの？いつ結婚したの？

優花　1年前って。

沙耶　ふく・・・(できちゃた婚かって感じの含み)

優花　なんか友達の知り合いの女の子らしいよ。

沙耶　相手いくつ？

優花　2コ下だつてよ！

沙耶　18？！　え！！　何で私には教えてくれなかったのよ！　圭吾知ってんの？

優花　話してないって。

沙耶　そうだよね。

沙耶　ところで、優花は最近どうなのよ。彼氏いるの？

優花　うん。ちよつと年上だけどね。

沙耶　へえ。年上ね。年上の人って、頼りになるし、包容力はあるし、お金もあるし、

甘えられるし、多少のワガママは許してくれるし……。

優花　うん。(うれしそうに……)

沙耶　付き合ってどれくらい？

優花　1ヶ月。

沙耶　ほやほやじゃん。

優花　うふふふ。(笑)　この間デートしたんだけど、もうすっごく緊張して前の日眠れなかったんだ。

沙耶　へえ……。緊張してドキドキかく。(達観して、教える感じで)　そういう気持ちって一時的なもので、一度過ぎちゃうと戻ってこないのよ。

優花　でも、私は大丈夫よ。(笑)

沙耶　そうね、優花は大丈夫。

優花　うふふ。　沙耶ちゃんは、今……。付き合ってる人いないの？

沙耶　彼氏？　めんどくさいから、今は、ホスクラで遊んでる!!

優花　ホスクラ？

沙耶　ホストクラブ!!

優花　えっ!!????

照明変わり、ホスト3人 現れる。

沙耶はそのホストに駆け寄り、肩を組んで楽しそうに担当ホストを見つめる。

ホスト1　沙耶ちゃんご来店です!!

全員　いらっしやいませー!

ホスト2　沙耶ちゃん!!　入れちゃいますか？

沙耶　いいよ!

ホスト3　5番テーブル勝弥くんご指名のお客様よりドンペリいただきました。ありがとうございます!!

ホストのコール♪

照明戻り、

沙耶が優花のところに戻ってくる

沙耶 すっごく楽しいの!! ホストは私のしもべ、何でもワガママ言いたい放題!! 私のためにみんなが頑張ってくれるの。

優花 そんなところ行くのやめたがいんじゃない? 事件とかに巻き込まれたら大変だし。

沙耶 事件?(笑) 笑わせないでよ。ドンだけ危ないのよ。それに「カケ」してないから大丈夫だよ!

優花 カケ? って?

沙耶 お金が足りなくなったから、お店にカケとくの。で、月末までに少しずつ払っていくの。

優花 もし払えなかったら?

沙耶 担当のホストが代わりに払うんだって!

優花 ホストが?

沙耶 ホストも大変だよね・・・。

優花 ……。

沙耶 でさあ、私の担当の別の客が、4ヶ月もカケしてて、担当も4ヶ月分、120万も出せないから保険証持ってこいって言って、で、裏で個人情報売って、サラ金で金借りて穴埋めしたらしい。

優花 沙耶ちゃんは大丈夫なの?

沙耶 あたりまえでしょ。わたしはそんなへましないわよ。

優花 沙耶ちゃんいくらぐらい使ってるの?

沙耶 今月50万くらいかなあ。

優花 え!? 50万も?

沙耶 私は使わないほうだよ。

優花 そんなお金どこから出てくるの？

沙耶 最近いい仕事見つけたんだ。

優花 何？

沙耶 んー、ちょっとした派遣みたいなものかな！

優花 派遣って月50万も稼げるんだ。

沙耶 優花みたいなタイプはホスト行ったら絶対はまるよ。

優花 私そんなのいやだ。だって愛がないんだもん。

沙耶 ……

優花 ホストなんてやめた方がいいよ。

沙耶 ……あのね、ホスクラ行って、担当に恋してるわけじゃないの!! 私は客として行ってるんだから!! 向こうも仕事。私は客。この関係が成り立ってるからいいの!! 割り切ってるから!

沙耶携帯がナル。今までどうって変わって甘えるような声で電話に出る沙耶

沙耶 「もしもし♪うん、うん、いまあゝ田舎で友達と飲んでるところ。あさって東京帰るから…、うん!! 同伴? いいよいいよ! じゃあ、新宿の「Tops」で、あさって6時半に…、はうい」(と電話を切り、悪びれた様子もなく)ごめん!! 担当から♪

優花 (間) おばちゃん生きてたら、そのこと言えるの？

沙耶 ……二十歳にもなって…、優花は、親に何でも言ってるわけ？

優花 そうじゃないけど…でも：ホストなんてイイことじゃないでしょう…。

沙耶 最近はね、昔と違って、結構若い子も遊び感覚で行ってるんだから。

優花 やめた方がいいよ。

沙耶 いいじゃない。自分のお金で遊んでるんだから。それに…、社会勉強。社会勉強、知らないより知ってた方がいいでしょ? 世の中には色んな男がいるのよ。分かる? ま

あ、時には騙されることもあるわよ。でもそれも一つの勉強。勉強を重ねるのよ。色んな男と付き合ったらね、どんな人か目をみて分かるようになるのよ。

優花 …… 沙耶ちゃん…、変わったね。

沙耶 え…… 変わったって…… 変わったちゃ悪い？

優花 いや、…… 沙耶ちゃん、ちゃんとした恋愛した方がいいよ？

沙耶 ちゃんとした恋愛？ …… ちゃんとした恋愛って何？ 恋愛に正しい間違ひもあるの？？ 優花はちゃんとした恋愛してるの？

優花 ……。

沙耶 もしかして…… 年上と付き合ってるって不倫なんじゃない？

優花 違うよ。私たちには、ちゃんとした愛があるもの…。

沙耶 何よ、ちゃんとした愛ってなに？

優花 彼、私のことちゃんと愛してくれてるもん。

沙耶 じゃあ、教えてよ!! 愛って何？ ちゃんとした恋愛してるんでしょ？

優花 それは……

沙耶 それは？

優花 ……もう、やめよう。せっかく久しぶりに会ったんだから……。

沙耶 優花、ホントは不倫なんでしょ？ ねえ、どうなのよ。

優花 …… ねえ、もう、やめよう。

沙耶 奥さんと子どもいるんでしょ？

優花 沙耶ちゃん、どうしたの？ 沙耶ちゃん、昔はこんなじゃなかったよね？

沙耶 …… だ、優花はいつもそうだった!! 良い子演じて楽しい？ それとも自分が収めれば、全てもうまくいくとも思ってるの？

優花 え……

沙耶 だいたい、ほんとに彼氏いるの？ みんなに羨ましがられたくて、ほやほやの恋愛演じてるだけなんじゃないの？ 正直にいうなら今のうちだよ。

優花 …… そんな、ひどい……。私はただ沙耶ちゃんのことを思っ……。

沙耶 もういい! 私帰る!

優花 え、帰るってどこに？

沙耶 どこだっていいじゃない。 どうせ私のことなんかホントは心配なんてしてなんでしょ!! (沙耶、出て行こうとする)

優花 沙耶ちゃん…。

沙耶、優花の部屋から出て行く。

15

・
B

子ども時代。

ストーリーと関係なく、みんなでただ楽しく遊ぶ。

剛

(剛のモノローグ③) 僕はすっかり忘れていた。みんなと過ごした子ども時代を…。卒業して僕は私立の中高一貫校に行き、みんなとも離れ離れになった。高校を卒業し、一浪して京大の農学部合格した。農学を勉強したいとか、家を継ぎたいとか、そんなことは考えていなかった。どこでもよかったんだ。ただ、農学部だと父も喜んでくれたし、なによりも、何をしたいのかわからないでいた自分を納得させることもできた。しかし、京都での生活は、最悪だった。大学の授業は興味のないものだったし、何をして、どこにいても自分の居場所は「ここじゃない」と思った。 お金には困っていなかった。家から仕送りは必要以上に多かった。「お前のことを思って…」が父の口癖だった。そのことが、さらに僕の心を重くした。

16

・
A

現在。街頭で薄明るい路上。

沙耶が歩いてくる剛とばったり会う

沙耶 剛？

剛 あれ？優花んちに泊まったんじゃないかったけ？

沙耶 ちよつとね。

剛 そつか、俺は、煙草買いに・・・。

沙耶 そう。

剛 沙耶、顔色、冴えないな。

沙耶 うん、別に。ちよつと優花にひどいこと言っちゃった。

剛 大丈夫だって。優花はああ見えてそんなに気にしてないって…。

沙耶 うん。てかこの村ホント変わらないね。

剛 でも駅前にスーパーできてたよな。

沙耶 ほんと、びっくり。あんな大きいのできちゃ、「みやむら」もお客減っただろうね。

剛 そうだな。

沙耶 ねえ、あそこの居酒屋、店、閉めちゃったんだね。

剛 ああ、あそこばあさん一人でしてたもんな。

沙耶 うん。

剛 おまえさあ、仕事アパレルだったよな？

沙耶 うん。

剛 そつか。

沙耶 何・・・？

剛 いやあ、それならいいんだ。

沙耶 ?なにどうしたの？

剛 ……。

沙耶 どうしたのよ。

剛 人違いだった……。

沙耶 なにが？

剛 ……。

沙耶 何かあるならいってよ！

剛 いやあ、この間ビデオ屋に行ったんだ。

沙耶 ……見たんだ……。

剛 え？

沙耶 どうだった？

剛 どうって……。

沙耶 よく見つけたね。「団地若妻大集合」？ それとも「OL痴女集団」？

剛 ……。

沙耶 それとも……？

剛 ……「プライベート……」……。

沙耶 ああ！「濡れ濡れお姉さまのプライベートレッスン」ね？あれ、丸一日撮影かちやって、もうくったくた……。

剛 それでいくら貰ってた？

沙耶 50万……かな？ 3本契約で。

剛 3本でたったそんだけ？

沙耶 でも3本、一日で一気に撮るから。そう考えれば……。

剛 今もやってるのか？

沙耶 たまにね。

剛 やばくねーのか？

沙耶 最初はね。けど一回やったら普通の仕事じゃんって。

剛 続けるのか？

沙耶 剛だって観てるんでしょ？（笑）
……。

沙耶 結構人気あるんだよう。

剛 何でAVなんか・・・。

沙耶 ・・・・、お父さんのところにたずねて行ったの。そしたら新しい家族がいてさあ、お父さん幸せそうにしてた。

剛 お父さんに会えたのか？

沙耶 うん。お父さん私のこと「面倒みる」って言うてくれた・・・。でもね。
剛 ・・・・。

沙耶 (吹っ切れたように) そんなことできるわけないじゃん？！

剛 それでAVなのかよ。

沙耶 ・・・・そうよ、悪い？ 好きなセックスしてお金貰って、そのお金で好きなもの買って、お金払って遊んで・・・、私一人でやっていけるの。

剛 女は強えーな。

沙耶 そ、私強くなったでしょ？

剛 ・・・・お前幸せか？

沙耶 うん。今んところはね。

剛 それならいいけど。

沙耶 私こんな話するの剛がはじめて。

剛 そうか・・・。

沙耶 ありがとう。剛はどうなの？ 京都でいいことあった？

剛 お、俺？

沙耶 うん。

剛 俺は・・・、最悪だよ。

沙耶 そっか。

剛 ・・・・。

沙耶 でも、きつといいことあるって。

剛 (うなづく)

沙耶 生きてれば・・・きつとね。

剛
・・・

沙耶
・・・

剛
沙耶、握手してくんないか？

沙耶
う、うん。・・・でも、どうして？

剛
・・・

沙耶
いいよ。(と言って沙耶が手を差し出す)

剛
・・・ありがとう。(と言って手を出す、沙耶の方からその手を握る)

間

剛
(手を離し、曇る顔を吹き飛ばし) それにしても、お前…。水田真理って名前はない

だろう。

沙耶
そう？ 私、結構気に入ってるんだから。

(剛・沙耶、笑う)

明暗

剛
(剛のモノローグ④) ここに帰って来るまで、僕の8年間に生きている実感はなかつ

た。ただ、毎日が無意味に僕を通り過ぎていくだけだった。そんな僕にも彼女いた。

最初に声をかけたのは僕の方だった。しかし、しばらくすると彼女の気持ちに僕は、

ついていけなくなっていた。僕はただ、彼女の気持ちをわかっていふりをしてい

ただで、「愛してる」なんて感情はこれっぽっちも持っていなかったような気がする。

僕は、僕の嫌いな僕に、僕自身が次第に慣れてしまいそうで不安だった。僕は、いつ

も孤独だった。僕は・・・本当はいないんじゃないか。僕は自分の存在が消えてしま

いそうで怖かった。「生きていけば…」と言った沙耶の言葉は、あいつも僕と一緒に、

今の自分に安心なんかしていないんだと思った。

一步の部屋。

一步、なにやら結婚指輪のパンフレットみたになものを幸せそうに眺めている。

圭吾、お風呂から上がってきてパンツ1枚。

圭吾 ああ、いい湯だったあ。

一步 ねえ、招待状みんなに届いたのかな？

圭吾 日本の郵便局は、民営化されても日本一です。

一步 はあ。みんな驚いたかな？ 私の絵。小学校のまんまのみんなの似顔絵。みんな自分とは思わなかったりして。(笑)

圭吾 そうだな。(氣のない返事)

一步 あ、圭吾パンツ穴あいてる…。(笑)

圭吾 ほんとだ。笑うなよう。(と言いつつも、穴のあいたパンツには無頓着で、服を着る氣配もはない)

一步 ちゃんと服ぐらい着てよ。

しかたなくパンツの上から部屋着を着て、すぐに漫画を取り出し、読みはじめる圭吾
再び、パンフを嬉しそうに眺める一步。

一步 (思いついたかのように…) ねえ、覚えてる？ 小学校のときみんなで圭吾んちのハウス行ってトマトの絵描いたの。

圭吾 ああ。

一步 あの時一緒にトマト描いたでしょ？

圭吾 うん。

一步 「一步と同じトマト描いてどっちが上手かみんなに決めてもらう」って……。本当

は私と一緒にいたかっただけなんですよ？（笑）　どうなのよ？（にやにや）　って聞
いてる？

圭吾　うん。

一歩　興味なさそう・・・。

圭吾　興味あるよ。うわあああ、見ろよ、これ!! スーパーサイヤ人、これがスーパーサイ
ヤ人2! これがスーパーサイヤ人3!!

一歩　・・・。（哑然）

圭吾　スーパーサイヤ人ってすごいよなあ。

一歩　・・・じゃあ、スーパーサイヤ人になれば？　どうぞ、なってください。

圭吾　え？　なっていないの？（嬉しそうに）

一歩　（あきれて）なって、なってくださいいな。そんなコトより、リングどれがいい？　こ
の雑誌に可愛い載ってたんだけどさ。（と、雑誌をめくり探す）　これこれ!　で
も、ちよつと高いかな。

圭吾　俺、どれでもいい。どうせ俺、つけないよ、作業の時は取らないといけないし。

一歩　作業のときだけ取ればいいじゃん!!

圭吾　そんなん買ってどうするんだよ。

一歩　愛の証、永遠の愛の証!!　うふ!

圭吾　そんなに頼やらなかったって、これからずーと一緒にいるんだろ。

一歩　そりやそうだけど、やっぱ目に見える形でほしいの!　女の子は!!・・・たまには私
の話も聞いてよ。

圭吾　わかったよ。（と言って、圭吾また漫画を読み始める）

一歩　本当!?　買っているの!!　どれにしようかなく・・・

一歩、嬉しそうに指輪の記事を眺めながら...

一歩　ねえ、私たちが初めて手つないだの覚えてる？

圭吾　忘れた!

一歩 えー！ 圭吾からつないできたんだよ!!

圭吾 そうだったけ？

一歩 もっとちゃんと聞いてよ。

圭吾 なあ、腹減らないか？

一歩 ……(絶句)

圭吾 どうした？ そんなに腹減ってたのか？ 棚に昨日おばさんがふかしてくれた芋があったんじゃないか。

一歩 もう、どうしていつもそうなの？ どうしてそんなにムードがないのよ！ 昔はもっと構ってくれたじゃない！ デートは家ばかりじゃなくて…。話だってもっと聞いてくれたし…。私にだってもっと焼もち妬いてくれたじゃない……

圭吾 だから…餅はないけど芋はその棚にあるって…(笑)

一歩 もう、きょうぐらい、ちゃんと話きてよ！

圭吾 ……

一歩 ねえ、圭吾、私のこと好き？ 私のこと愛している？ 私、圭吾のことこのまま好きでいていいんだよね？(普段聞けないことを一気に聞いてしまつて、はつきりと圭吾から答えがほしいわけでもないし…。圭吾を困らせてしまったかと少しごまかして…) 高校のとき、中央町からふたりで歩いて帰ってきたことあったじゃない。途中でつかれて、大川の土手に寝そべっていたら、空には星がいっぱいあつてさ、そして流れ星ながれたよね。あのときの圭吾はなんてお願いした？

圭吾 よくしゃべるよな。

一歩 (調子に乗り出す) そうそう、そう言えば、文化祭の時、美術部で遅くまで残つて正門前の大パネル仕上げた日も、ずっと待つてくれて、…自転車二人乗りして帰つてたら、チェーンが外れて、でも圭吾が手を真つ黒にして直してくれたんだよね。

(昔の思い出をしゃべりつづける一歩)

一歩 高三の期末試験のときも、「生物難しくてわかんない」て言ったら、前の日に私んちに来て、夜遅くまで教えてくれたよね。あん時の圭吾の予想問題バツチ当たつてさ、ショウジョウバエだ！って、試験中にこっそりVサイン送ってくれよね。…ねえ、覚

えている？　冬の寒い日だったかな、二人で映画見に行ったときも、私がもし白血
病になったら、どうする？って聞いたたら、「おれは、朔太郎みたいに、お前を死なせな
い。お前のこと忘れたりはしない。それに、世界の中心は遠くにあるんじゃないって、
ほら、ここだろ？」って、突然私にキスしてくれたよね。あれ初めてのキスだったよ
ね。

圭吾　（唐突にぼそっと）ほんと、よくしゃべるよな。昔ってそんなに大事か？

一歩　え・・・？大事よ！　昔のほうが圭吾優しかったもん!!　ちゃんと話聞いてくれたも
ん。

圭吾　一歩、「かずほ」って一歩^{いっぽ}って書くんだろ。昔の思い出もいいけどさ、これからの…、

一歩　一歩先、二歩先のことも考えろよ。

一歩　圭吾は考えてるの？

圭吾　ああ

一歩　じゃ、なんで私の話聞いてくれないの。圭吾はなにも話してくれないの？　私いやだ！
私昔のことでもこれからのことも圭吾と話したんだよ。

圭吾　・・・。

一歩　私、これからもこんな圭吾のままだったら…（涙）

圭吾　・・・。

一歩　もういい！　私散歩に行つて来る。

圭吾　そうか。気をつけろよ。

一歩、圭吾の止める声を期待しながらも部屋から出て行く。

18

A

路上。カラオケが終わって酔っ払った三人が歩いてくる!!

剛 圭吾お前これからどうするんだよ！

圭吾 家に帰るんだろ？

剛 違うよ！これからのことだよ！

圭吾 ……

大輝 もう、1年たつだろう？

圭吾 まだ、……1年だよ。

剛 お前のせいじゃないって俺の親父も言ってたぜ。

大輝 あれは事故だったんだよ。

圭吾 でも……なんであの時、俺、あいつの話ちゃんと聞いてやらなかったんだろう。

大輝 そんなに自分を責めるなよ。

圭吾 じゃあ、なんで死んだんだよ。俺があんなこと言わなかったら、あいつ、国道なんて歩いてなかった。

大輝 あれは相手の運転手のほうが悪かったんだって。

剛 運転手も自分の過失を認めてるんだろ？

圭吾 それはわかってる。でも……

剛 そんなにぐじぐじ考えたって、一步は帰ってこないんだよ！

圭吾 そりゃさあ、親父が倒れてから俺たちの結婚バタバタと決まっていたよ。一步のお母さんと親父が話し合って、まだ早いけどどうせ結婚するならって、親父が動けるうちにつて、結婚が決まったんだ。俺も一步のこと嫌いじゃなかったし、ほかに好きな奴なんてできなかったし、なによりあいつといると居心地がよかったし……「まあいいか」つてホント簡単に決めたところはあった。

大輝・剛 ……

圭吾 でも、一步がさあ、一步ホントに嬉しそうに喜ぶんだよ。涙ぐんでさ。私、幸せになるんだ！ 幸せにしてね！つて。それ見てると、俺、なんかとんでもないこと簡単に決めたんじゃないかって。親父がいなくなったら俺たちどうやって生きていくんだろう？ 農業の将来なんて明るいところなんてほとんどないし、苦勞の連続になるのは目

に見えてる。それでも俺は農業好きだし、トマト作り続けたいし、いろいろ考えていたところで、一步があんな…。

大輝 一步もそれは覚悟してたんじゃないか…。

剛 だから一步も結婚決意したんじゃないか。

お前らにも手描きの招待状届いただろう？ あの絵、ひとりひとりお前らのこと、楽しそうに思い出しながら、夜遅くまで一枚一枚丁寧に書いてたんだ。もううるさくてさ、俺なんかそんなことお構いなく、テレビ見てたんだぜ！！ おれ、結局、あいつの気持ち知ってたのに、それ表に出すのが照れくさくって、いつもごまかして、あいつの前ではいいかげんなことばっかし言ってた。俺、ずっと続くと思ってたんだ。あいつがいなくなつて初めて気づいたんだ。あいつが話してたこと、あいつがいつも昔のことばっか話してたのは、俺を励ましてたんじゃなかった。いろいろ大変なことがあるかもしれないけど、でもきつと楽しいこともあるよって、楽しかったことは全部思い出になつていくって…、その思い出がこれからの私たちを支えてくれるでしょって…。

剛 そうか。

大輝 あの絵には、そんな思いがこもっていたのかもしれないな。

圭吾 あいつ、ホントに俺のこと愛してたんだなって。そんなこと考えてたら、あいつのこ
と思ひ出すのも怖くて、そしたら、ほんとに忘れていくみたいで…

剛 無理に忘れなくてもいいんじゃないか？

圭吾 俺、怖いんだ。あいつが消えてしまいうで怖いんだ。あいつがいなくなったことが
怖いんじゃない。俺が忘れてしまうことが怖いんだ！ 俺、あいつと一緒に流れ星
みたんだ。あいつその時「圭吾のトマトがいつまでも食べれますように」お願いした
んだ！」ってホントに嬉しそうに話してさあ。 でも…。 なあ、一步本
にいたんだよな？

大輝 圭吾。

剛 お前…、お前は、なんで後ろばかり見てるんだよ。もう少し前見てもいいんじゃない

いか！ 前向いて歩けよ！！

圭吾 俺は、ちゃんと前向いてるよ。トマトもちゃんとやってるし。

剛・大輝 ……

圭吾 お前らに何が分かるんだよ。

圭吾、走り去る。

暗転

19
・C

一步の家。誰もいない。

そこにトマトをたくさん抱えて圭吾がやってくる。（元氣のない圭吾）

圭吾、トマトを静かに台の上に置き、そこから一つのトマトを手取る。

そして静かに一步の部屋に向かう。

一步の部屋で涙ぐみながらひとり茫然としている圭吾。やがて窓から外を静かに眺める。懐かしさと断ち切れない思いの中で佇む圭吾。

そこに、一步が小学生の格好で現れる。気づかない圭吾。

続いて、優花・沙耶・剛・大輝たちも登場。

それぞれステージ上のオモチャ箱を片付けた。そこは時空間を超越したファンタスティックな空気が漂っているかのよう。

一步だけが圭吾に気づき見つめる。その距離は近くだが、絶対に届かない距離だということが一步にはわかってしている様子。しかし「大丈夫だよ」という思いであふれている。

4人が一步に声をかける。「カズホー！」でもその声は客席には聞こえない。

一步はその声が仄かに聞こえたかのように、4人の方に振り返る。

一步を手招きする4人。一步は寂しさから解放されたかのように4人の駆け寄り、一緒に去

っていく。

圭吾は、みんなの、そして一步の気配を感じたのか振り返る。そこには誰もいない。ただ、懐かしい匂いのようなものだけが漂い残っている。

圭吾は何かを感じている。それは何なのかはわからない。

圭吾は、何か答えを見つけたようでもあり吹っ切れたようでもあり、清らしい表情で一步の部屋を去る。

20

・A

現在。教室。いよいよタイムカプセルを開ける日。

優花が入ってくる

優花 まだ誰も来てないのか・・・

しばらくして沙耶が入ってくる。

優花を見てちよっと気まずそう。優花も同様。

沙耶 (躊躇しながら) おはよう。

優花 (そっけなく) おはよう。

沙耶・・・優花・・・昨日ひどいこと言ってごめんね。

優花 (ちよっと驚いて)・・・うん。いいの。沙耶の言ってることは間違っていないから。

沙耶 (素直に) そんなことないよ。

優花 昨日どこに泊ったの？

沙耶 朝まで駅前で飲んだ。

剛、眠そうに入ってくる。

沙耶 (剛に) おはよう。

剛 ああ、お前昨日あのあとどうしたんだ？

沙耶 まあなんとか…ね。

優花 (剛と沙耶の会話に割り込むように…) 剛くん、おはよう。昨夜沙耶ちゃんと飲んだの？

剛 いや、ちょっと見かけただけ。それよか、圭吾はまだ？

優花 もう来るんじゃない？

沙耶 昨日、男同士でまた遅くまで飲んでたんでしょう。

剛 まあな

大輝が入ってくる。

大輝 ごめーん！！… (剛に向かって) 圭吾まだか？

剛 ああ。

優花 ふたりとも圭吾、圭吾って、昨日なんかあったの？

沙耶 男同士で話が盛り上がったんじゃない。

大輝 まあな。

優花 どんな話したの？

剛 まあ、いろいろとな。

優花 えー、気になる！

圭吾登場。表情は爽やか。その表情にちょっと驚き気味の剛と大輝。

圭吾 おはよう。

優花 おはよう。圭吾くん。

圭吾 (大輝に近づき) 大輝、おはよう。

大輝 おお、おはよう。

圭吾 (剛に近づき) 剛、おはよう。

剛 ああ。

優花 なになにに、なんか男子おかしい！ おかしくない？ 沙耶ちゃん。

沙耶 なんかつたの？

圭吾 一步のことでき、ちょっと。

(間)

沙耶 私さ、事故のこと知って、絵みてたら、一步のことが思い出されて…

大輝 似顔絵の腕あげてたよな。

優花 私も一步から結婚式の招待状届いたとき、とっても嬉しかった。

剛 俺でも、なんかジーンときた。

圭吾 俺はもう、一步の絵見るのは…。

そこに先生が入ってくる

先生 (テンション高く) あらあり、みんな大人になって！

全員 先生！！

先生 優花ちゃんでしょ、大輝君でしょ、剛君でしょ、沙耶ちゃんでしょ、そして圭吾君。

(みんな笑顔で答える) 圭吾君、一步ちゃんのこと、いろいろ大変だったわね。

圭吾 はい。この間1周忌が終わったところです。

先生 そう、もう大丈夫？

圭吾 ええ、まあ。

剛 圭吾は大丈夫ですよ。

大輝 もう大丈夫ですよ、圭吾は。

沙耶 いいなあ、男の子は。

先生 喜んでるんじゃない？ 一步ちゃんも。

圭吾 え？

先生 みんな8年間いろいろあったみたいね。先生ね、ゼーンぶ知ってるんだから。

それぞれちょっと動揺する。

先生 うっそぴょーん!!

全員 (なにをいつてるんだかという感じで...) ぐあ!!

先生 先生ねえ、あのあとついに結婚しちゃったの! 野球選手と♪

圭吾 ええ!?

先生 でも彼、「私にはついて行けない」って2年で別れて、今度は美人女優になったの!! (小さくひそひそと) でもAVには出てないわよ。(笑)

沙耶と剛がどき!!

大輝 先生映画とかに出たんですか?

先生 まあね、でも美しいだけじゃ女優はつとまらないって、今度は、ブログ書いて熟女ネツトアイドルになっちゃった。

剛 (はっと気づいて) ああ!!

先生 でえ、それも飽きちゃってえ、ココだけの話し今お医者さんと付き合ってるの!! (小さく) 奥さん子どもいるんだ...。でもやっぱり平凡が一番よね、大輝くん♪

大輝 俺って平凡なんすか?

優花 先生、そろそろタイムカプセル掘り出す時間ですよ。

圭吾 もう来てたよ、シヨベルカー。

先生 じゃあ、行こっか!

全員 おー!!

暗転

21
・
A

暗転の中

シヨベルカーで掘り出す音の中、みんなの声だけが響く。

大輝 ほんとうに入ってるのかよ。

優花 あ、思い出した！！私バレンタインのチョコ入れたんだった！

大輝 え？

優花 大輝に渡せなかった奴

大輝 それ、俺に食えって言うのかよ。

先生 先生が食べてあげるう♪

全員 （笑う）

剛 これ何。

沙耶 楽譜？

先生 あー、これー！！

♪グリーングリーン 一人ずつ重なるように歌いだす。

暗転あけ。

22
・
A

優花、圭吾、大輝、剛、先生が、グリーングリーンを歌いながら出てくる。

そこに少し遅れて、沙耶が畳まれた画用紙を手にとって出てくる。

沙耶 これ、誰の？

みんな振り返り、沙耶は画用紙を先生に渡す。

優花 これ、一歩ちゃんのじゃないですか？

先生 開けてみましょうか。

全員 （先生、静かに開けてみる。みんな言葉発せず、覗き込む。圭吾はひとり離れた場所）
沙耶 一歩のだ。

（他の子どももそれぞれ「一歩のだ」と呟く）

先生 圭吾くんは？

優花 圭吾くん。（と圭吾に呼びかける）

大輝 圭吾。

剛 圭吾。

沙耶 圭吾。

圭吾は振り向かない

先生が沙耶にその折りたたまれた画用紙を圭吾に持っていくように促す。

沙耶、それを受け取り圭吾のところへ歩みよる。

沙耶 ……

押しこらえたらうに反応しない圭吾。

先生、剛に促し、剛が圭吾に歩み寄る。沙耶から画用紙を受け取り、圭吾に渡す。

剛
・・・

怯えるように静かに受け取る圭吾。恐る恐る折りたたまれた画用紙を開いてみる圭吾。

そこには、画用紙一面に真っ赤なトマトの絵その片隅には「わたしの大好きなケイゴのトマト」の文字（客席からは見えない）

圭吾の押しこらえて泣く後姿。

明暗

剛
（剛のモノローグ⑤） 8年前、一步がタイムカプセルに入れたものは、一枚の絵だった。そこには真っ赤に熟した赤いトマトが、画用紙いっぱいにつだけ描いてあった。

……そして、その隅っこには汚い字で、「わたしの大好きなケイゴのトマト」と小さく書き添えられていた。

こうして僕たちの8年ぶりの再会は終わった。ただ一人を除いては……。それから僕たちは、それぞれの場所に戻っていった。それぞれの暮らしの中に……。いつかまたみんなが再会する日はあるのだろうか？…それはわからない。けど、きっと僕らは、それぞれのやりかたでそれぞれの日々を生きていくんだろう。それぞれのトマトを胸にいだいて…。

23

・
C

一步の部屋

圭吾が入ってくる。その手には真っ赤なトマト。

部屋の壁には、一步が描いた「トマトの絵」が貼られている。

圭吾 おはよう。

一歩・・・おはよう。

二人・・・

圭吾 これやるよ。

圭吾、一歩にトマトを渡す

一歩 トマト？

圭吾 今日朝もぎたて

一歩 え？

圭吾 うまいから食べろよ。

一歩 うん。(トマトを食べる) マンゴーみたいに甘い！

圭吾 そりゃ言い過ぎさだろ。でも、うまいだろ！

一歩 (素直にそして幸せそうに) うん。うまいが…

圭吾・一歩 濃いく!! (笑)

圭吾 ……一歩さ、タイムカプセルにトマトの絵、入れてただろ？

一歩 うん、でも何で知ってんの？

圭吾 実は俺さ、あん時、一歩があんまり一生懸命にトマトの絵描いてたから、こいつトマトが好きなのか、絵描くのが好きなのか、どっちだろう？ってお前の顔見ながらずっと考えてた。

一歩 ふーん。(静かに、そして素直な表情で聞いている一歩。)

圭吾 ……一歩さ、昔の話ばかりしてただろ。俺、ほんととはどれも忘れてなんかいなかった。覚えてるよ、ちゃんと。俺にとっても大切な思い出なんだ。でも、そんな思い出の中の俺たちがいて、今のふたりがいる…、俺それだけで十分じゃないかって…。お前とこうして一緒にトマト作れる…。それだけで、俺それだけで十分じゃないかって…。

一歩 私は、十分じゃないわよ。でも……。

（と言って、圭吾と目を合わせ、無邪気・明るく・幸せそうに笑う）

圭吾 （その屈託ない一歩の笑顔を見て） お前さあ…、トマトみたいだな。

一歩 ……。

圭吾 俺、そんな一歩が好きだから。

一歩 え？今なんて言った？

圭吾 何度も言わせるなよ！！こっちは恥ずかしいのを我慢して言ったんだから。

一歩 ちゃんと言って、目を見ていって！！

圭吾 は？ 畑いくぞ！（やさしく）お前も手伝えよ。

一歩 （大きく張りのある声で幸せそうに） 待ってよ！！

音楽流れる

暗転

（完）

「トマトはアオイ」
公演記録



九州情報大学演劇部

F-Stage

第10回公演

演出：若松百合香



紫苑祭公演

2007年11月10日・11日

九州情報大学1号館303教室

(紫苑祭バージョンで上演)



まほろば公演

2007年12月8日・9日

太宰府館3F まほろばホール

(まほろばバージョンで上演)



この戯曲は、
上記二つの版をもとに改訂したバージョンになります。

この台本の上演を希望される場合は、下記までご連絡ください。

(連絡先)

f-stage@hotmail.co.jp

090-5267-2424

(F-Stage HP)

<http://www.ekiis.com/~F-Stage/>